

せいびあん（整備員） 整備兵曹、整備兵をいひ、整備科に屬して航空機、航空發動機及び航空機用諸兵器の整備竝に補修等の任務に従事するもの。

せいびか（整備科） 整備長を科長としその下に整備士、掌整備長及び下士官兵を配し飛行機の整備に関する業務物件を掌理し一個分隊を編成す。整備長は分隊長を、整備士は分隊士を兼務するのが例。→整備長→整備士→掌整備長

せいびし（整備士） 整備長の命を承けその職務を分擔補助する乗組兵科將校（中尉又は少尉）又は特務士官、准士官である。

せいびちよう（整備長） 艦長の命を承け整備科員を監督して其の指揮を執り、航空機の整備に関する事を擔任し、之が教育訓練を掌り、主管の船體、艦船艤裝品を整備す。

軍艦の大小により一定しないが中佐、少佐、大尉がこの職に補せられる。

せいびへい（整備兵） 海軍航空機全般の整備に従事する兵種である。飛行兵を民間の操縦士にたとへれば整備兵は機關士に相當する。したがつて赫々たる偉勳に輝く海軍航空部隊の蔭には、この整備員の優秀卓抜なる整備技術が常に物をいふてゐることを忘れてはならぬ。また地上整備作業に限らず大型機ともなればその乗員の一人となつて活躍する。これを搭乗整備員といふ。→海軍志願兵→下士官兵官職

セイロン（Ceylon） 英二等巡洋艦。フィジイと同型艦。1941年竣工。→フィジイ

せおひしきほうとう（背負式砲塔） 同所に2基以上の砲塔を艦の

基線上に装備するときは前部（または後部）の砲塔は恰かも後部（または前部）の砲塔を背負ふ如く据えられる。これを背負式砲塔と謂ふ。

せきどうまつり（赤道祭） 帆船時代の船乗の慣習。始めて赤道を通過する者に對し一人前の船乗とする意味で相當手荒にあしらつて相興じたといふ。但し現代に至りては單に航海中の慰安的行事として行ふ。軍艦に於ける赤道祭の一例を概説すると主として下士官兵の中で赤道通過記録保持者を海神ネプチューン、その他ネプチューンの妃、官女、廷臣（赤鬼、青鬼）神官等に役割をなしそれぞれ特殊の扮裝をなす。赤道通過の直前となるや海神ネプチューンは左右に赤鬼青鬼を隨へて降臨（海神はマストの上より滑車にて吊下し、赤鬼青鬼はその左右索梯子を下る）し、神官の先導にて總員の迎へる後甲板に到りて設けの席につく。こゝにて神主は海神を迎へる奇想天外の祝詞を奏し、これが終れば満悦せる海神は赤道通過の鍵を艦長に授け之にて祭事を終了、餘興に移るといふ趣向。下士官兵が神様となりて艦長に鍵を渡すなどは恐らくこの赤道祭を措きてなかるべく長途航海の無聊を慰めて艦内はしばし慰樂の時に過ぎる。→寫眞 59

せじよう（施條） 大砲又は小銃の膛中に縦に旋廻して彫り刻まれたる條丘である。彈丸は導環（ドウカン）をこれに接着して射出する如く構造されてゐるからこれにより非常なる旋轉運動を與へられ、彈頭を前方に維持し且より遠距離に彈着せしむるもの。

ぜつといちりゆう（Z一旒） 此の信號は明治三十八年五月二十七日、日本海々戰劈頭に、旗艦三笠に掲げられた、有名な信號で「皇